

第 4 回神奈川小児循環器研究会

日 時：2008年 9月27日(土)
 場 所：崎陽軒本店 6階
 当番世話人：岩本 眞理(横浜市立大学小児循環器科)

1. 大動脈弁狭窄を伴った極型Fallot四徴症の1例

神奈川県立こども医療センター循環器科

岩岡 亜理

大動脈弁狭窄を合併した極型Fallot四徴症はまれである。今回経験した症例は、胎児期に総動脈幹弁狭窄を伴った総動脈幹症と考えられていたが、生後の超音波検査で大動脈弁狭窄を伴った極型Fallot四徴症と診断された。生命予後不良な病態であり、治療に難渋すると予測される。

2. Torsade de pointesを来した先天性QT延長症候群の新生児例

聖マリアンナ医科大学小児科

有馬 正貴, 水野 将徳, 都築 慶光, 後藤建次郎
 栗原八千代, 村野浩太郎

症例は在胎38週5日, 出生体重3,474gの男児。出生時QTcは0.618secと著しく延長しており, 生後12時間に連発するVPCを契機にTdPを認めた。現在はプロプラノロールとメキシレチンを内服しながら遺伝子解析の結果を待っている。

3. 新生児期に介入を要した重症Ebstein奇形・肺動脈閉鎖の1例

横浜市立大学小児循環器科

山口 和子, 西澤 崇, 市川 泰広, 渡辺 重朗
 岩本 眞理

同 心臓血管外科

南 智行, 長 知樹, 磯松 幸尚, 益田 宗孝

肺動脈閉鎖, Ebstein奇形の男児。右室の形態よりbiventricular repair可能と考えた。日齢10にBroock術施行。生後1カ月右BTシャント, 右流出路再建, 右房縫縮術施行した。

4. 当院におけるAmplatzer septal occluder導入後の心房中隔欠損症に対する外科治療の現状

神奈川県立こども医療センター心臓血管外科

小坂 由道, 麻生 俊英, 武田 裕子, 梶原 敬義
 松濱 稔, 大中臣康子

心房中隔欠損症治療(ASD)の1選択肢として, 当院も2006年8月にAmplatzer septal occluder(ASO)を導入した。ASO導入後2008年8月までに閉鎖術の適応と判断した合併心奇形を有しないASDは123例あった。79例にASOを用いた閉鎖術を行い, 44例(36%)に外科的閉鎖術を行った。ASO導入後の外科的治療の位置づけをこの2年間に経験した44例と, 導入前の92症例(2003年8月~2006年7月)を比較することで検討したい。

5. 左心低形成症候群に先天性横隔膜ヘルニアを合併した13トリソミーの1例

昭和大学横浜市北部病院こどもセンター

松岡 孝, 西岡 貴弘, 澤田まどか, 曾我 恭司
 梅田 陽

同 循環器センター

山辺 陽子, 富田 英, 上村 茂

胎児エコーで心奇形を指摘され当院に紹介。左心低形成症候群(AAo: 1.5mm), 横隔膜ヘルニアを疑い29週で羊水検査施行し, 13トリソミーを認めた。文献的考察を併せて発表する。

6. 単心房に対する心房内血流転換術後に心筋梗塞を生じた1女児例

北里大学医学部小児科学

安藤 寿, 木村 純人, 中畑 弥生, 石井 正浩

同 胸部外科

宮地 鑑

Dex/SA/IVC欠損の7カ月女児。PV, SVCおよび肝静脈は左側に還流。心房内パッフルを作製し心房内血流転換術を行った。術後12時間で心筋梗塞を生じたが人工心肺の導入により救命し得た1例を経験したので報告する。

7. 高度僧帽弁逸脱, 僧帽弁逆流に対し僧帽弁形成術, 僧帽弁輪縫縮術が奏効したマルファン症候群の1例

横浜市立大学小児循環器科

渡辺 重朗, 市川 泰広, 山口 和子, 西澤 崇
 岩本 眞理

同 心臓血管外科

長 知樹, 南 智行, 鈴木 伸一, 磯松 幸尚
 益田 宗孝

症例はマルファン症候群の26歳女性。僧帽弁逸脱, 僧帽弁逆流に伴う心不全の進行を認めた。人工腱索を用いた僧帽弁形成および人工弁輪を用いた弁輪縫縮を施行し, 僧帽弁逆流はほぼ消失した。

特別講演

「動脈管制御の新標的分子ーポストプロスタグランディンE」

横浜市立大学大学院医学研究科循環制御医学

横山 詩子